

Ⅱ 平成20年度 図書館運営の概況

1 運営方針

以下のとおり運営方針を策定し、平成20年度重点事項の達成に努めた。

(1) 運営の基本

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示）並びにその後の社会の変化や新たな課題に対応した「これからの図書館像」（報告）を基本にしながら、「県立図書館あり方検討委員会報告」を踏まえ、多様化・高度化する県民のニーズに対応した県内全域の図書館サービスの向上を図るため、市町立図書館への支援と県民への直接的利用に応えるとともに、県内図書館のネットワークの充実や関係機関との連携に努め、地域を支える情報拠点を目指す。

(2) 平成20年度重点事項

「市町立図書館への支援」の強化

- 1 市町立図書館を通じての県民サービスに配慮した資料収集を行い、各館蔵書の横断検索による相互活用を推進するとともに、主題別資料リストの作成や関連サイトの紹介等の情報提供による支援を行う。
- 2 ふるさと文献情報データベース等のデータベースの充実を図るとともに、司書職員の情報検索に関する専門性の向上に努めて、市町立図書館のレファレンス・サービスを支援する。
- 3 基礎講座及び専門研修等の開催や講師の派遣により市町立図書館の職員研修やボランティアの養成を支援する。
- 4 図書館運営の相談に的確に応じるため、関連情報の収集提供に努め、共同で調査研究を行う。

「県民への図書館サービスの提供」の充実

- 1 所蔵データベースの充実を図るとともに有料データベースの整備・活用に努め、レファレンス・サービスの機能を強化し、情報サービスの充実を図る。
- 2 現代的課題に対応した資料の重点的収集及び開架資料の更新に努める。
- 3 県が実施する「アクティブ21」及びJR西日本のデスティネーション・キャンペーンの一環として資料展示を行うほか、「ふるさと山口文学ギャラリー」の新設により強化された展示機能を活用して山口県の文学振興に寄与する。
- 4 「子ども読書支援センター」を中心に情報・学習機会の提供や人材育成に努め、子どもの自主的な読書活動を推進する。また、「山口県子ども読書活動推進計画」の改訂に参画して、市町立図書館を核とした地域ネットワークの形成とともに、学校及び学校図書館への支援に努める。
- 5 県民の関心が高い行事の実施やホームページの改善等により、効果的な広報を行う。

県立図書館と市町立図書館等とのネットワークづくり

- 1 山口県図書館情報ネットワークの機能を活用して市町立図書館等との緊密な情報の流通・共有を図るとともに、全国総目録、レファレンス協同データベース等の全国的なネットワークに参加する。
- 2 市町村合併等に対応した巡回協力業務の拡充や大学図書館2館との協定による連携事業を推進するほか、宅配便の効率的活用を図り、物流体制の強化を進める。
- 3 各種図書館との連携はもとより、教育、行政、産業、学術等幅広い分野との連携を深め、併せて人的ネットワークの強化を図る。

施設・設備の再編

- 1 書庫の狭隘化に対応するため、既存資料の除籍とともに、開架スペースの配架変更等による書庫対策に計画的に取り組む。
- 2 老朽化対策としての緊急優先箇所の修理を行うとともに、バリアフリー化に向けた施設・設備

の改修を検討する。

2 平成20年度の取組概要

(1) 組織目標の取組状況

運営方針を具体的に推進するため、重点的な事項について組織目標を掲げ、以下のとおり取組を行った。

ア 子ども読書活動の推進

従来から行っている貸出サービス、講師派遣、レファレンス・サービス、講座・研究会の開催、情報誌の発行等に加え、高等学校図書館支援のためのアンケート調査を実施した。

イ 「ふるさと山口文学ギャラリー」の利活用（機能強化）

平成20年度新たに設置された「ふるさと山口文学ギャラリー」の利活用を図るため、4回の企画展示と、通年の常設展示、デスティネーションキャンペーン（JR西日本と連携）や、山頭火フォーラム山口大会（やまぐち全国山頭火フォーラム実行委員会と連携）、山口お宝展（山口商工会議所と連携）等のイベントに呼応した特別展示を行った。また、やまぐち文学回廊出前講座（やまぐち文学回廊構想推進協議会と連携、全2回）、維新史出前講座（県文化振興課と連携）を実施するとともに、県政放送やFMラジオ等の広報番組への出演など、広報にも力を入れた。

ウ 健康情報の充実

平成20年4月22日に、西サイドホールに「闘病記コーナー」を設置した。同年8月に行った利用館内アンケート調査では、コーナーの認知度・利用度ともに低かったものの、同年10月より病気や健康に関する資料展示を行うなど、広報に努めた。また、県健康増進課や患者会等よりパンフレットなどを収集し、コーナーで配布した。

エ ホームページのコンテンツ再構成とレイアウト変更

平成19年度ホームページ検討委員会の検討結果に基づき、「ふるさと山口文学ギャラリー」などの新規コンテンツを中心に、図書館向けウェブサイトテンプレート「Moogaone」を採用した新デザインのページを作成した。既存ページの再構成は次年度以降に実施する。

オ 面接対応のレベルアップ

来館者に気持ちよく利用してもらうために、ひとづくり財団の「職場ぐるみ研修」に参加し、面接対応の技能等について学ぶとともに、研修の結果を館内の環境整理などに活用した。

(2) 「ふるさと山口文学ギャラリー」の開設・記念式典・記念講演会

「ふるさと山口文学ギャラリー」は、平成18年度「国民文化祭やまぐち2006」を機に、文学情報を発信する常設施設の設置要望が高まったことを受けて、本県に関係する文学資料を幅広く紹介する施設として開設された。開設当日は、開設式と記念講演を行った。開設式では、知事、教育長、当館館長並びに、来賓としてお迎えした中原中也記念館館長福田百合子氏と作家の古川薫氏によるテープカットのほか、当館職員による施設展示の案内・説明を行った。また、古川氏を講師に開設記念講演を行い、111名の参加者があった。講演に併せて、会場前に関係図書152冊を展示した。

開設式

日 時：平成20年4月22日（火） 14時30分～15時

場 所：県立山口図書館エントランスホール（開設式）

「ふるさと山口文学ギャラリー」前（テープカット） 参加者：30名

開設記念講演

日 時：平成20年4月22日（火） 15時～16時30分

場 所：県立図書館レクチャールーム

講 師：古川薫 氏

演 題：「小説の中の虚と実」 参加者：111名

(3) 山口大学図書館・山口県立大学附属図書館との相互協力協定

平成18年度に当館も含め3館で締結された相互協力協定に基づき、資料の相互貸借や研修交流等を行った。平成19年度より実施している週2回（火・木）の配送車巡回が定着し、相互貸借の利用が増加した。

また、当館遠隔地返却システムのPRに努め利用促進を図ったことにより、利用が飛躍的に増加した。文献複写依頼についても、代金と引き換えもしくは後払いの実施により、各館利用者の利便性が向上した。

さらに、研修交流（計1回）や、中国四国地区大学図書館研修会への当館職員のオブザーバー参加といった研修会・行事等への参加（計4回）等により、人的ネットワークの形成が促進された。

3館相互協力協定協力車の運行状況

ア 相互貸借（合計貸出冊数 181冊）

県立図書館	→	山口大学	90冊	県立大学	18冊	計108冊
山口大学	→	県立図書館	7冊	県立大学	21冊	計28冊
県立大学	→	県立図書館	12冊	山口大学	33冊	計45冊

イ 遠隔地利用者返却システム利用

山口大学	662冊	212人	(19年度	288冊	107人)
県立大学	957冊	302人	(19年度	215冊	78人)

(4) 利用者1500万人突破記念事業

当館が明治36年7月に創立開館して以来、平成20年5月末の時点で利用者数が1500万人を突破したことを記念して、105年の歴史を振り返るとともに、その時々々の世相や読書環境を年表と当時の新聞記事、所蔵資料などで紹介した。また、平成20年度「文字・活字文化の日」関連事業として「この人におすすめ！私の読んだベスト3」の募集・展示を実施した（詳細は後述）。

期間：平成20年6月10日（火）～6月29日（日）

展示場所：中央カウンター付近

内容：(1) 展示「利用者数から見た県立図書館の歩み」

開館以来の利用者数の推移と当館の歴史、及びその時々々の世相を、グラフと年表、新聞や雑誌の記事で紹介した。

(2) 資料展示「あの頃、その時、こんな本」

開館以来、その時々で話題になった本や読まれてきた本を所蔵資料より紹介した。

(5) 「文字・活字文化の日」関連事業

平成20年度「文字・活字文化の日」関連行事として以下の行事を実施した。

ア 「この人におすすめ！私の読んだベスト3」の募集・展示

利用者数の1500万人突破を記念し、一般県民より広く「私のおすすめ本」を募り、応募作を紹介した。県内在住の方を対象に、「下の世代の人に」「家族に」「友人に」といった薦めたい相手と、薦めたい本、お薦めのメッセージを、応募カードやホームページを用いて募集し、推薦された本とメッセージを館内に展示した。その一部はホームページでも紹介した。延べ86名の応募があり、203点の本を紹介した。また、関連して「読書ワンポイント 山頭火と中也の読書」と題し、その日記などから二人の「おすすめ本」と思われるものを6点選んで展示・紹介した。なお、展示した本は延べ306冊の貸出があった。

募集期間：平成20年8月1日（金）～10月26日（日）

掲示・展示：平成20年8月19日（火）～11月2日（日）

展示場所：中央カウンター前

イ 県立図書館活用ワークショップ「文字で伝える個人史」にチャレンジする方への図書館活用講座

自分や家族の歴史を調べて「書く」ということに挑戦する、主として中高年層を対象とした

ワークショップを開催した。この講座は「書き方」の講座ではなく、主体的に自分の歴史を調査して、自分史・家族史発表に役立つ資料を作成することを目的としたもので、当館司書が個人史に取り組むための資料の使い方や調べ方を講義した後、実際に書庫の中で資料を探す実習を行った。

日 時：平成20年11月8日（土） 13時30分～16時

会 場：第2研修室 参加者：3名

ウ 話題の本コーナー展示「広告にみるコトバのチカラ」

広告やグラフィックデザイン関係の図書のうち、コピーライティングやレタリング、ロゴデザインなど、言葉や文字の魅力を感じさせるものをピックアップして展示・紹介した。

期 間：平成20年10月1日（水）～11月9日（日）

展示場所：中央カウンター前 展示冊数：100冊

エ 読書週間ミニ企画展示「本と読書の名言・諺」

古今東西の本と読書に関する名言や諺の載っている図書を集め、展示・紹介した。

期 間：平成20年10月30日（木）～11月9日（日）

展示場所：中央カウンター前 展示冊数：10冊

（6）図書館サービスに関する調査

図書館サービスに関する調査を3回実施した。

ア 定点観測調査

平成18年度から行っている在館者の利用実態を把握するための定点観測調査を、平成20年度も7月15日から9月14日の期間で行った。

イ 来館者アンケート調査

図書館サービス、特にレファレンス・サービス、ビジネス支援サービス、闘病記コーナーの利用度・満足度について、アンケートによる来館者調査を8月5日から10日の期間で行った。

ウ 非来館者アンケート調査

イと同じ調査を後述「まちなかライブラリー in 図書館」にて、非来館者アンケート調査として10月11日から13日の期間で行った。

（7）デスティネーションキャンペーンへの参加

山口県、県内市町、JR西日本などの連携による観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン」に参加した。参加にあたっては、やまぐち文化施設等専門職員連絡協議会参画施設が連携して、「大内文化」と「七夕」をテーマに各館で企画展示を行うこととした。

当館では、「ふるさと山口文学ギャラリー」において、企画展示「文学の中のふるさと山口」と「仮御手鑑（かりおてかがみ）」「聚分韻略（しゅうぶんいんりゃく）」のスポット展示を行った。また、中央カウンター前では、話題の本として「七夕～星と宇宙（そら）に想いを込めて～」を行い、七夕、星、宇宙に関する図書を紹介・貸出した。

（8）関係機関との連携

ア 社団法人発明協会山口支部

平成19年度より実施している「発明&特許の無料相談会 in 図書館」を、平成20年度も定期的で開催し、平日に参加の難しい利用者向けには「土曜相談会」も行った。また、特許・商標等に関する初心者向けセミナー、「特許・商標セミナー in 図書館」を開催した。

（1）「発明&特許の無料相談会 in 図書館」

日 時：毎月第2・第4火曜日 午前の部 10時～12時、午後の部 13時～16時

内 容：どのような権利が取得可能かわからない人、特許・意匠・商標等の出願手続きがわからない人を対象に社団法人発明協会山口県支部所属のアドバイザーが個別相談に応じる。

実施日：4月8・22日、5月13・27日、6月10・24日、7月8・22日、8月12・26日、9

月9・24日、10月28日、11月11・25日、12月9・24日、1月13・27日、2月10・24日、3月10・24日（計23回）

会場：第2研修室 参加者：延べ33名

(2)「発明&特許の土曜相談会 in 図書館」

内容：上記無料相談会を、平日に参加の難しい利用者向けに土曜日に開催したもの。

実施日：5月24日、2月14日（計2回）

会場：第2研修室 参加者：延べ5名

(3)「特許・商標セミナー in 図書館」

内容：「特許・商標って何だろう？ ～知的財産権制度入門」（講師：(社)発明協会
山口県支部出願アドバイザー 溝内真理子 氏）

「特許電子図書館（IPDL）の使い方 基本編」（講師：山口県知的所有権センター
特許情報活用支援アドバイザー 川井牧人 氏）

日時：平成20年7月11日（金） 13時～16時

会場：第1研修室 参加者：12名

イ 中国四国農政局山口農政事務所

6月の食育月間にちなんで、中国四国農政局山口農政事務所の協力により、日本の食生活と食料自給率をテーマにしたパネル展示と「食の知っ得講座」を開催した。

パネル展では、同事務所より借用したパネル10枚を展示するとともに、各種パンフレットを配付した。また、関連資料展示として、話題の本「食の安全・安心ー食育月間にちなんでー」を行った。食の知っ得講座でも、関連所蔵資料を展示した。

(1) パネル展示「考えてみませんか私たちの食べもののこと～食料自給率の向上へ向けて～」

期間：平成20年6月17日（火）～22日（日）

展示場所：エントランスホール

(2) 食の知っ得講座「ご存知ですか？いつもの食事の中身～国産？それとも外国産？～」

日時：平成20年6月19日（木） 13時30分～15時

会場：第1研修室

講師：板垣正親 氏（中国四国農政局山口農政事務所消費生活課係長） 参加者：10名

ウ やまぐち秋の彩りフェスタ実行委員会（山口市都市計画部中心市街地活性化室）

山口市中心市街地で開催された「やまぐち秋の彩りフェスタ事業」の「空き店舗活用プロジェクト」に参加し、出張図書館事業「まちなかライブラリー in 商店街」を実施した。同事業は、当館サービスを紹介するとともに、彩りフェスタ事業の趣旨に沿った展示等を行う「アンテナショップ」をコンセプトとした。3日間の入場者は、延べ780人であった。終了後、館内にて、事業の様態などを掲示した。

日時：平成20年10月11日（土）～13日（月・祝） 10時～17時（13日は15時まで）

会場：道場門前商店街空き店舗

参加者：延べ780名

内容：(1) ふるさと山口ミニ文学ギャラリー

中原中也、嘉村磯多ほか山口市ゆかりの文学者とその作品を紹介した。

(2) 懐かしのレコードコンサート

旧視聴覚ライブラリーから引き継いだレコード資料の上演を行った。BGMとして流した他、プログラム演奏も行った。

(3) 商店街と山口の街、今むかし

図書館界隈の昔の写真パネルや、商店街に関する写真パネル（旧制山口高等学校同窓会・山口鴻南会より借用）、当館所蔵の山口市街に関する資料を展示した。

- (4) 山口市ふるさと発見ライブラリー
維新史回廊構想推進協議会、やまぐち文学回廊構想推進協議会作成のパネル「歩いてみよう、見てみよう！山口市の明治維新・ふるさとの文学を辿って」を借用して展示した。併せて、山口市に関する貸出可能な郷土資料を展示・貸出した。
- (5) 「この人におすすめ！私の読んだベスト3」 in 商店街
「文字・活字文化の日」関連行事として行った同事業のミニ掲示板と資料展示、おすすめ本の募集を行った。
- (6) 図書館に質問！～知りたい山口のこんな事～
山口市及び山口県に関するレファレンス事例を掲示・紹介した。併せて、会期中に山口市・山口県に関する質問も受付し、後日回答を館内に掲示した。
- (7) 県立図書館サービス案内
当館のサービス概要をパネルで紹介し、館内で配布しているチラシなども併せて配布した。
- (8) 会場ミニイベント
県観光連盟の協力により、「山口どこでも紙芝居」の上演を行った（10月11～13日、11時～・12時～）。また、こども読書推進班職員による「2・3歳児のための出張おはなし会」を行った（10月11日、13時～13時20分）。
- (9) 非来館者アンケート
当館のサービスについてのアンケート調査を行った。

エ 山口版画の会

12・1月月間資料展示「干支・丑」の関連行事として、また「日本のクリスマスは山口から」まちじゅうフェスティバル協賛事業として、山口版画の会の協力により、講座「干支・丑とクリスマスの版画教室」を開催した。それに併せ、館内で同会会員の作品を展示した。

日 時：平成20年12月6日（土） 13時30分～15時

会 場：第1研修室

講 師：片岡博臣 氏（山口版画の会事務局長） 参加者：18名

オ 社団法人中小企業診断協会山口支部

同支部との連携により、「会社の悩み&チャレンジ 経営相談会 in 図書館」を開催した。従来行ってきた「発明&特許の無料相談会 in 図書館」に加えて、ビジネス支援サービスの一環として、創業を目指している人や経営革新・経営改善等を考える経営者を対象に、同支部所属の中小企業診断士1名による無料の経営相談を行った。

日 時：平成21年3月8日 午前の部 10時～12時、午後の部 13時～16時

会 場：第2研修室 参加者：3名

カ 山口地方裁判所・山口地方検察庁

平成21年5月から実施される裁判員制度について県民の理解を深めるため、地方裁判所・検察庁の協力を得て、裁判官と検事による講座「そこが聞きたい！裁判員制度」を2回行った。併せて、資料展示ニュースを読む「もうすぐはじまります！裁判員制度」と題し、関連所蔵資料の展示とパンフレット等の配布を行った。

日 時：第1回 平成21年1月31日（土）、第2回 同年2月7日（土） 13時30分～15時

会 場：第1研修室

講 師：第1回 伊藤淳 氏（山口地方検察庁 検事）

第2回 向野剛 氏（山口地方裁判所 刑事部総括裁判官）

参加者：第1回 12名、第2回 11名

キ やまぐち文学回廊構想推進協議会

同協議会との連携により、ふるさと山口文学ギャラリー企画展示「防長の女流文学―歌人・俳人篇―」に関連して、「やまぐち文学回廊出前講座」を2回開催した。

第1回

日 時：平成20年11月30日（日） 14時～15時 会 場：第1研修室
講師：長門幸江 氏（山口県俳句作家協会理事・山口市俳句協会副会長）
演題：「やまぐちの俳句―上野さち子と菊舎―」 参加者：30名

第2回

日 時：平成20年12月7日（日） 14時～15時 会 場：第1研修室
講 師：河野輝枝 氏（山口県歌人協会副会長・「萌」主宰）
演題：「短歌（うた）の魅力を探る」 参加者：12名

ク 県文化振興課

同課との連携により、ふるさと山口文学ギャラリー企画展示「維新のふるさと ～吉田松陰没後150年～」に関連して、「維新史出前講座」を開催した。

日 時：平成21年2月8日（日） 10時～11時30分 会 場：レクチャールーム
講 師：三宅紹宣 氏（広島大学大学院教育学研究科教授、山口県史編さん委員会委員・明治維新部会長）
演題：「吉田松陰と維新の志士たち ～松下村塾における吉田松陰とその門下生～」
参加者：207名

ケ 山口商工会議所

同会議所が行った観光キャンペーン「日本のクリスマスは山口から」及び「山口お宝展」に協賛し、特別展示等のイベントを行った。

「日本のクリスマスは山口から」の協賛行事として、山口日独協会との共催による講演会「ドイツから学べること―自然との共存を目指して―」、「ドイツの自動車リサイクルについて」、ワークショップ「エコキャンドルを作ろう」、パネル展「持続可能な暮らしと社会」を行った。

また、関連資料展示としてニュースを読む「環境問題を考えるために」を行った。併せて「干支・丑とクリスマスの版画教室」、子ども資料室小展示「世界のクリスマス絵本」（子ども資料室、期間：11月29日～12月25日）を行った。

「山口お宝展」協賛行事としては、特別展示「吉田松陰 孫子評註」（期間：平成21年3月20日～4月19日）を「ふるさと山口文学ギャラリー」にて行った。なお、山口お宝展終了後も、4月29日（水）まで展示を継続した。

コ その他

県統計分析課との連携により、今週の一冊「統計の日（山口県統計グラフコンクール入賞作品展）」を行った。また、資料展示話題の本において、県立美術館の展示「運慶流―鎌倉・南北朝の仏像と蒙古襲来―」にちなんで、「県立美術館の展示「運慶流」をみる前に」、県立博物館の企画展「ロボット展」にちなんで、「ロボットと人工知能」をそれぞれ開催した。

(9) 見学・研修の受入

職場体験学習については、市内の小学校1校より1名、市内の中学校4校より計6名、市外の高等学校1校より2名を受け入れた。

インターンシップについては、山口大学より2名、筑波大学より1名、山口短期大学より1名、宇部高等専門学校より1名を受け入れた。

社会見学等の受入については、市内・市外の小中高校をはじめとして、計382名であった。

(10) 広報

「ふるさと山口文学ギャラリー」開設に関して、県の広報媒体であるメールマガジン「山口きらめーる」2008年5月9日（Vo1.141）、5月23日号（Vo1.142）や、山口朝日放送の県政番組「教え

て！リカちゃん」(平成20年8月4日放送)、テレビ山口の県政番組「じゃんぷ！山口」(平成20年9月12日)などで紹介された。また、テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ、新聞、フリーペーパーなど、計129件の取材・報道があった。

なお、刊行物については、巻末「参考資料」に刊行物一覧としてまとめた。